

# 2012 年度 阿部県政スタート 報告書

(2012年4月6日～8日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	3
III	調査の概要	5



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

# I 調査の設計

## ◆調査の目的

阿部守一知事が就任して1年半余、自前としては2度目の予算編成をした2012年度県政が始まった。昨年東日本大震災と東電福島第一原発事故、県北部地震、松本市震度5強の災害に見舞われ、南海トラフ巨大地震も想定されるなかで防災と自然エネルギー対策が急務となっている。

こうした災害を受けた施策、知事の公約だった教育、産業力などの重点政策は県民にどう評価されているのか。

一方国政は野田佳彦政権になって半年余、消費税増税が焦点になっているが、「何も決められない政治」から脱却は程遠い状況が続く。国政の混迷が続く中、地方政治には何が求められるのか。

実質2年目の阿部県政を点検、今後のよりよき方向を見いだすため県民世論の動向を探る。

## ◆調査の設計

▽調査対象	県内に住む20歳以上の男女800人
▽抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに20代～70歳以上の6つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
▽調査方法	個別電話聞き取り・RDD（ランダム・デジット・ダイヤリング）法で実施。コンピューターで無作為に発生させてかける電話調査法で、電話帳に番号を載せていない人も調査できる。無作為に発生させた番号のうち、設定した年代・性の人を選び、目標の800人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
▽調査地点	19市9町6村
▽調査時期	2012年4月6日～8日
▽有効回答	812人（男性 392人 女性420人）

<注>

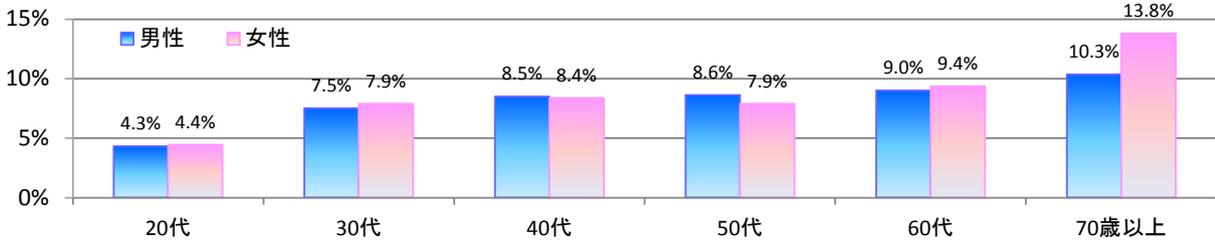
①報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

②文中のパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入した。

## ◆サンプルの内訳

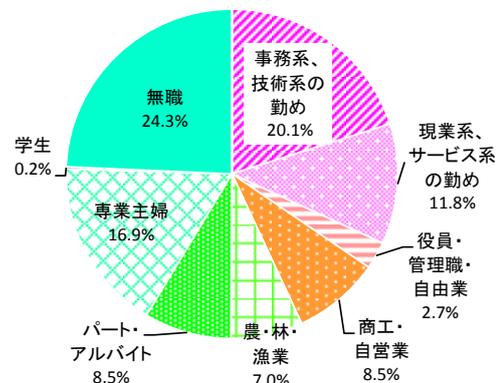
### 【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	812	71	125	137	134	149	196
	100.0%	8.7%	15.4%	16.9%	16.5%	18.3%	24.1%
男性	392	35	61	69	70	73	84
	48.3%	4.3%	7.5%	8.5%	8.6%	9.0%	10.3%
女性	420	36	64	68	64	76	112
	51.7%	4.4%	7.9%	8.4%	7.9%	9.4%	13.8%



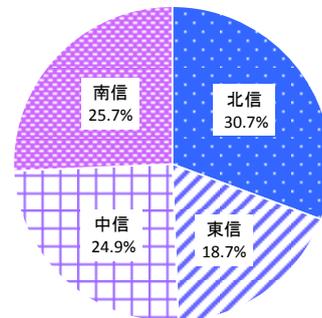
### 【職業】

事務系、技術系の勤め	163	20.1%
現業系、サービス系の勤め	96	11.8%
役員・管理職・自由業	22	2.7%
商工・自営業	69	8.5%
農・林・漁業	57	7.0%
パート・アルバイト	69	8.5%
専業主婦	137	16.9%
学生	2	0.2%
無職	197	24.3%
その他	-	-



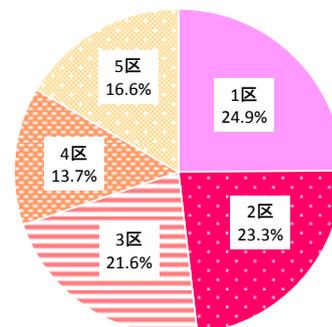
### 【地域】

北信	249	30.7%
東信	152	18.7%
中信	202	24.9%
南信	209	25.7%



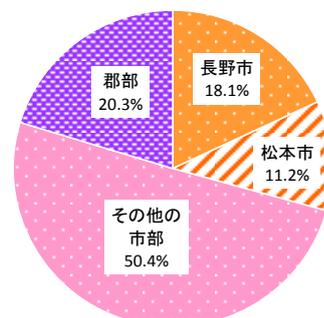
### 【選挙区】

1区	202	24.9%
2区	189	23.3%
3区	175	21.6%
4区	111	13.7%
5区	135	16.6%



### 【市郡別】

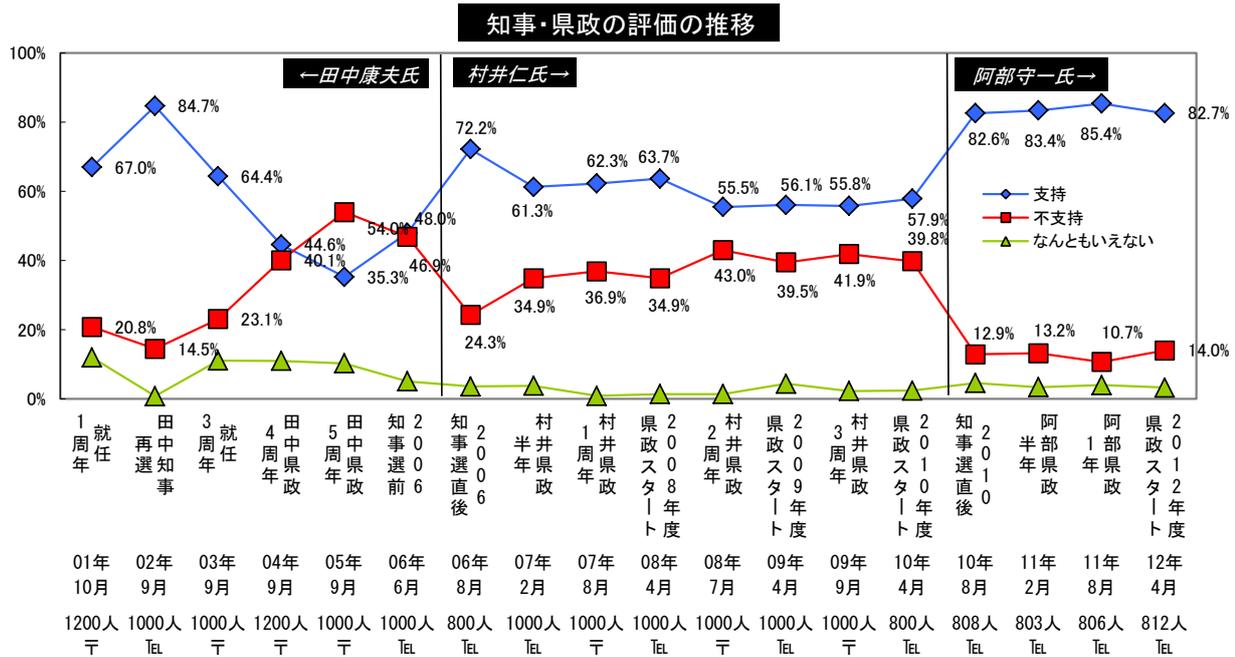
長野市	147	18.1%
松本市	91	11.2%
その他の市部	409	50.4%
郡部	165	20.3%



## II 調査のポイント

### ◆阿部知事の支持率 83%、積極的な「支持」は減少傾向

阿部守一知事の支持率は「支持する」27.5%、「どちらかといえば支持する」55.2%を合わせて82.7%で、阿部県政1年の調査（11年8月）よりは2.7ポイント下がったものの高水準を維持している。ただ積極的に「支持する」は阿部知事当選直後（10年8月調査）から徐々に減り、今回初めて30%を割った。一方「どちらかといえば支持する」が半数を超え、支持の強弱には変化が見られる。不支持はやや増えて合計で14%。



	01年10月	02年9月	03年9月	04年9月	05年9月	06年6月	06年8月	07年2月	07年8月	08年4月	08年7月	09年4月	09年9月	10年4月	10年8月	11年2月	11年8月	今回
支持する	36.6%	50.5%	29.7%	15.1%	11.6%	14.1%	35.9%	20.6%	19.6%	22.4%	17.8%	15.9%	16.0%	26.1%	40.5%	39.7%	35.5%	27.5%
どちらかといえば支持する	30.4%	34.2%	34.7%	29.5%	23.7%	33.9%	36.3%	40.7%	42.7%	41.3%	37.7%	40.2%	39.8%	31.8%	42.1%	43.7%	49.9%	55.2%
どちらかといえば支持しない	10.1%	8.0%	11.4%	17.5%	18.0%	25.9%	14.0%	24.6%	24.9%	24.6%	30.7%	28.7%	28.7%	21.3%	8.4%	9.3%	7.9%	10.6%
支持しない	10.7%	6.5%	11.7%	22.6%	36.0%	21.0%	10.3%	10.3%	12.0%	10.3%	12.3%	10.8%	13.2%	18.5%	4.5%	3.9%	2.7%	3.4%
なんともいえない・わからない	12.0%	0.8%	11.1%	11.0%	10.3%	5.1%	3.6%	3.8%	0.9%	1.4%	1.4%	4.4%	2.3%	2.4%	4.6%	3.4%	4.0%	3.3%
不明	0.2%	-	1.3%	4.3%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

知事の公約だった「信州型事業仕分け」を当初予算計上見送り、県会と評価・点検の仕組みを検討することについては肯定的評価が約6割で、知事の姿勢に理解を示していると言えそうだ。

今年度予算に計上した具体的な政策では「35人学級」の中学2年まで拡大、原発を持つ東電・中電との連絡通報体制の覚書、「1村1自然エネルギープロジェクト」はいずれも80%以上の評価を得ている。

東日本大震災により被災した宮城・岩手県のがれき処理受け入れに慎重な知事の姿勢については賛否が拮抗、男性は「評価できない」が57%、女性は「評価できる」が57%と対

照的な結果だった。

また知事の後援団体の政治資金収支報告書の肩書の誤りや記入漏れなどの問題で、県民に説明責任を果たしているかどうかは「あまり説明していない」55%、「まったく説明していない」13%と否定的な答えが7割近くに上った。

長野県のものづくりアピールの機会として、県も力を入れている技能五輪全国大会（長野技能五輪）とアビリンピックの認知度も聞いた。開催まで半年に迫ったが、「聞いたことがあるが内容は知らない」と「知らない」を合わせると技能五輪58%、アビリンピック72%に上り、まだまだ県民に浸透しているとは言えない。

支持政党について10年の知事選後から県政調査の折に、まず「ある」か「ない」かを聞いている。4回目になる今回、ついに「ない」が76%に達した。10年8月調査との比較で「ない」が20ポイントアップ、「ある」が20ポイントダウンした。支持政党なし層が政局を動かすと言われる所以だ。

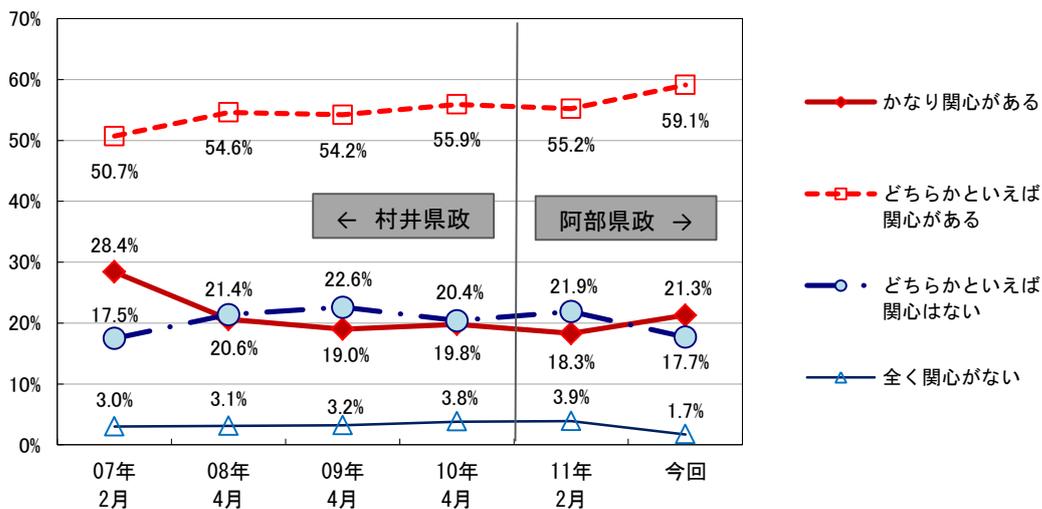
### Ⅲ 調査の概要

#### 県政への関心 (問1)

##### ◆「関心がある」が80%

県政に「かなり関心がある」21%、「どちらかといえば関心がある」59%と合わせて80%が関心を持っている。昨年2月の「阿部県政半年」で聞いた時は73%余だったので、やや関心度が上がった。

年代別に見ると若い世代ほど関心が低くなり20代は「ある」が59%、70歳以上とは32ポイントも差がある。地域別では南信の「関心がない」が、ほかの3地域に比べて高い24%。

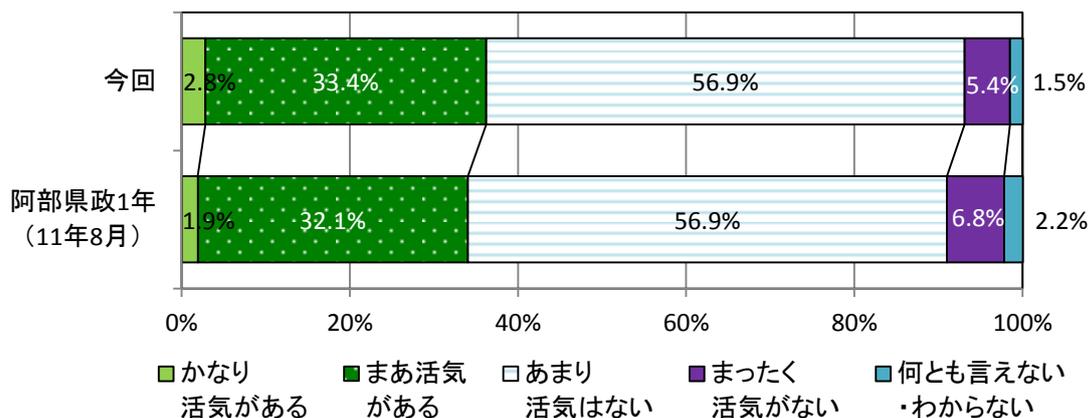


#### 長野県経済や暮らし向きの現状 (問2)

##### ◆「活気がない」改善せず、いぜん6割超

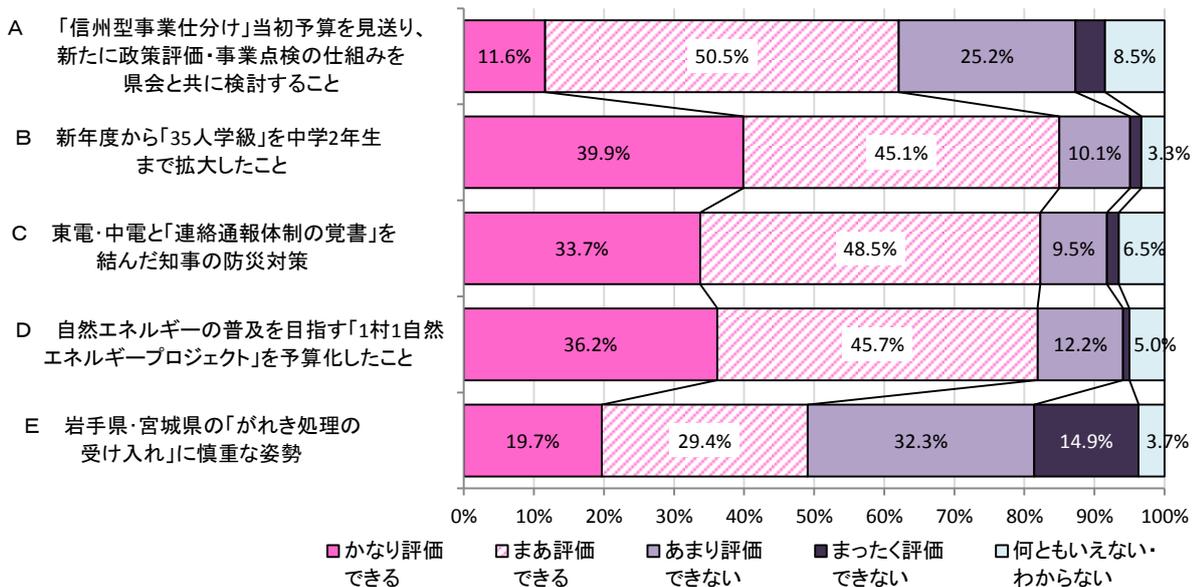
県内の経済や暮らし向きについて、昨年8月の「阿部県政1年」に続いて聞いた。「活気がない」が全体で62%と、ほとんど前回(64%)と同じ受け止めだ。

年代別で50代、職業では商工・自営業は7割以上が「活気がない」と思っている。



## 阿部県政の課題、取り組み (問3)

2012年度、阿部知事の具体的な取り組みや課題5項目を尋ねた。



### ◆「信州型事業仕分け」県会と共に検討に理解

阿部知事は過去2回の協会調査で高い評価を得た「信州型事業仕分け」について、県会側の難色を受け当初予算計上を見送り、新たに政策評価と事業点検の仕組みを県会と共に検討することにした。これについて「評価できる」が全体で62%、「評価できない」が29%と、知事の方針に理解を示している。

事業仕分けを「阿部県政半年」で聞いた際は64%、「阿部県政1年」では69%が評価していたので、具体的な取り組みが知事と県会双方に重い課題となりそうだ。

### ◆「35人学級」拡大、自然エネルギー普及に8割以上評価

今年度予算に計上した施策のうち、中学2年まで拡大した「35人学級(30人規模学級)」や自然エネルギー普及を目指す「1村1自然エネルギープロジェクト」は評価が全体で8割を超えた。知事の重点施策でもあり分かりやすいためか、各層を通じて大きな違いはない。

東京電力、中部電力と原発事故が起きた場合に「連絡通報体制」を定めた覚書締結についても、評価が82%に上っている。

### ◆「がれき処理の受け入れ」慎重姿勢に評価割れる

東日本大震災で被災した岩手、宮城県のがれき広域処理に、阿部知事は「県内の汚染廃棄物の処理を優先」、「国の対応が不十分」と受け入れに慎重な姿勢だ。これについて「かなり評価できる」20%、「まあ評価できる」29%、「あまり評価できない」32%、「まったく評価できない」15%と、肯定派49%対否定派47%で拮抗している。

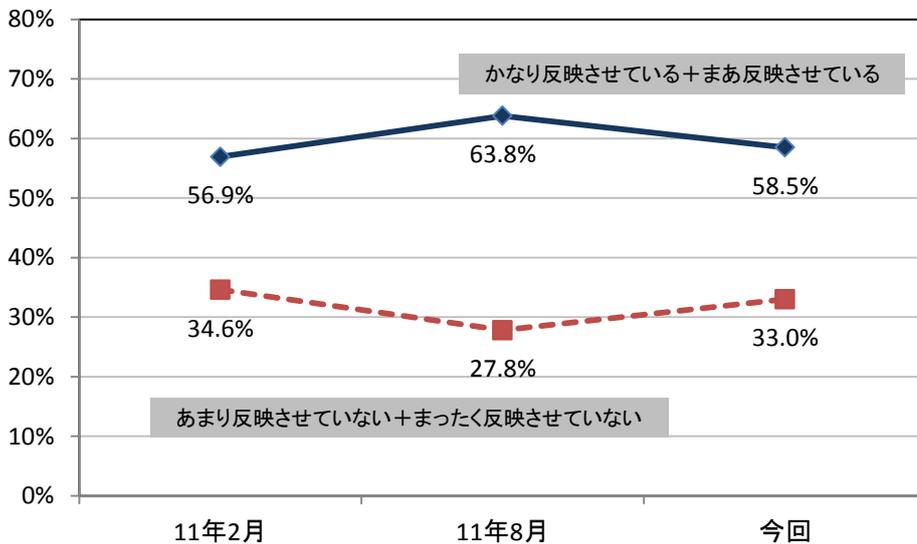
男性は否定派が 57%、女性は肯定派が 57%。年代別・職業別でも評価が割れている。民主、公明、共産、みんなの党支持者は「評価しない」が多く、自民党支持者は「評価する」人が多い。まさに県民を二分した形だ。

(注) 協会が 2 月に実施した「信州の防災意識—東日本大震災から 1 年」調査では、岩手、宮城県のがれきについて「放射線量を検査して、国の基準以下ならば受け入れても良い」と答えた県民が 82% だった。

## 阿部県政と県民のかかわり (問 4)

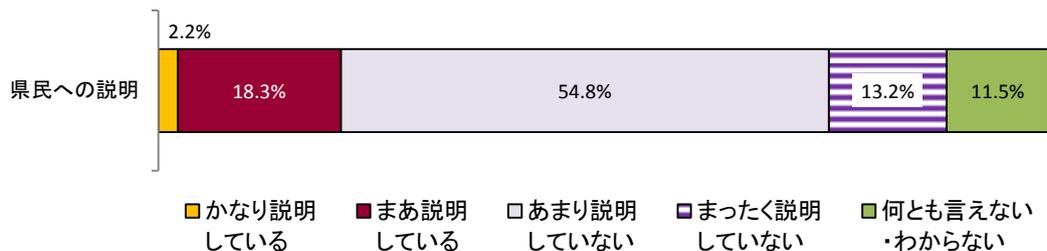
### ◆「県民の意見反映」 59%

阿部県政が県民の意見をどの程度反映させているか、11 年 2 月、8 月に引き続いて聞いた。「反映させている」が全体で 59%、前回 (64%)、前々回 (57%) の結果と大きな変動がなかった。ただ 20 代と 50 代は「反映させている」が 5 割に満たない。



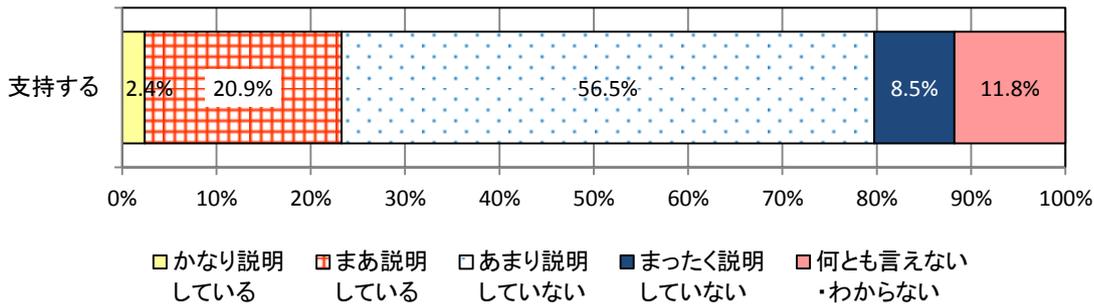
### ◆政治資金収支報告書問題には説明不足の声強く

知事の後援団体の 2010 年政治資金収支報告書で、寄付者の肩書「公務員」を「会社員」としたり、記載漏れが明るみに出た。これについて県民に「あまり説明していない」55%、「まったく説明していない」13%と説明不足を指摘する人が 68% に上る。



男性、40～50代、勤め人、パート・アルバイトは7割以上、阿部知事支持者の6割以上も「説明していない」と答えている。

◆阿部知事支持との関係では（支持する+どちらかといえば支持する合計671人）



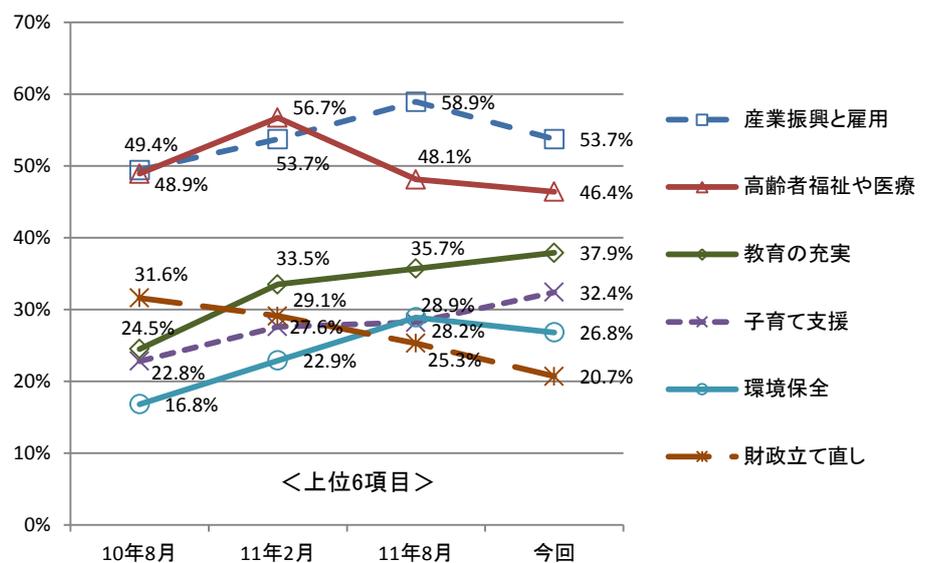
**力を入れてほしい政策**（問5）

◆「産業振興と雇用」「高齢者福祉や医療」上位変わらず

阿部県政に力を入れてほしい政策は「産業振興と雇用」54%、「高齢者福祉や医療」46%、「教育の充実」38%がトップ3で前回調査と同じ順番だった。

雇用対策には県もパーソナル・サポート・サービス事業などを展開しているが、いぜん県民の要望が強い。

女性と70歳以上は「高齢者福祉や医療」をトップに挙げ、20～30代は2番目に「子育て支援」を挙げているのは、自らの環境を反映している。

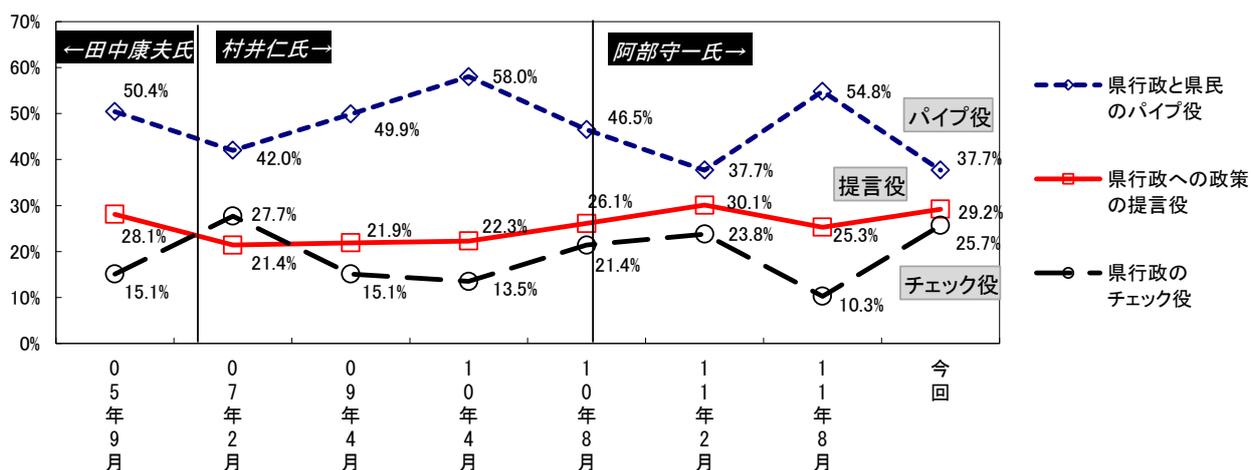


**県議会の役割**（問6）

◆「県行政のチェック役」15ポイント増の26%に

阿部県政に対して県議会に期待する役割は、「県行政と県民のパイプ役」が38%で前回調査より17ポイント減となったのに対し、「県行政をチェック」が26%と15ポイント伸びた。ちょうど昨年2月の「阿部県政半年」調査とほぼ同じ構図に戻った。

男性は「行政に政策提言」が36%で一番多く、女性は「パイプ役」を44%が期待しており男女差が大きい。



## 技能五輪、アビリンピックの認知度 (問7)

### ◆大半が「知らない」

今年の10月に松本・諏訪市で開かれる技能五輪全国大会と長野市で開催されるアビリンピックについて、どの程度知っているか聞いた。

ものづくり長野をアピールする絶好の機会として、県もPRに力を入れているものの、技能五輪を「知っている」は42%にとどまる。会場地の中南信でも3人に1人が「知らない」。

アビリンピックを「知っている」のも28%に過ぎない。会場地の長野市でも35%が「知らない」状況だ。

「長野県ものづくり産業振興戦略プラン」が始動、若い技能者を育み、ものづくりに力を入れる阿部県政として、さらなる県民への周知が求められる。

